

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59-2896

⑪ Int. Cl.
B41N 1/24
B41M 5/26

識別記号
102

庁内整理番号
8205-2H
6906-2H

⑬ 公開 昭和59年(1984)1月9日

発明の数 1
審査請求 有

(全4頁)

⑭ 感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙

⑮ 特 願 昭57-111815

⑯ 出 願 昭57(1982)6月30日

⑰ 発 明 者 青山康一

静岡市用宗巴町3番1号株式会
社巴川製紙所技術研究所内

⑱ 発 明 者 松永春夫

⑲ 発 明 者 矢野晴彦

静岡市用宗巴町3番1号株式会
社巴川製紙所技術研究所内

静岡市用宗巴町3番1号株式会
社巴川製紙所技術研究所内

⑳ 出 願 人 株式会社巴川製紙所
東京都中央区京橋一丁目5番15
号

明 細 書

1. 発明の名称

感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙

2. 特許請求の範囲

(1) 断面が円形又は円形に近いポリエステル繊維を50重量%以上含むことを特徴とする感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙。

(2) ポリエステル繊維の太さが0.3～4デニールである特許請求の範囲第1項記載の多孔性薄葉紙。

(3) ポリエステル繊維の長さが2～10mmである特許請求の範囲第1項記載の多孔性薄葉紙。

3. 発明の詳細な説明

本発明は感熱孔版原紙に用いる多孔性薄葉紙に関するものである。

感熱孔版原紙は一般に、高分子フィルムと多孔性薄葉紙を接着剤にて貼合させた形のものが用いられており、多孔性薄葉紙としては、従来より紙、皮繊維等、こうぜ、みつまた、マニラ麻、亜麻、

麻皮等を原料としたものが使用されている。これらの多孔性薄葉紙は、繊維の断面が偏平であり、フィルムと貼合させた場合、偏平な面がフィルム面と接合し、光透過性を極めて悪くし、その結果穿孔特性も悪化する。又、繊維の断面や繊維長も不均一なため、地合いの均一な多孔性薄葉紙を製造することは難しいという欠点がある。

本発明は、上記した従来の感熱孔版に用いられる多孔性薄葉紙の欠点を改良し、フィルムの穿孔性がよくかつ穿孔部よりのインクの透過がスムーズであり、印刷文字が鮮明であるような多孔性薄葉紙の提供にある。即ち、本発明は、断面が円形又は円形に近いポリエステル繊維を50重量%以上含むことを特徴とする、感熱孔版原紙に用いる多孔性薄葉紙に関するものである。

以下本発明について詳述する。本発明における多孔性薄葉紙はポリエステル繊維単独あるいはポリエステル繊維と他の天然あるいは合成繊維の混抄であり、ポリエステル繊維の好ましい特性を出

BEST AVAILABLE COPY

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号



特許庁 特許第 571032 号

特許庁 特許第 571032 号

7. 補正の内容

(1) 第4頁10行目～11行目

「この染料を用い」を「この塗料を用い」と
補正する。

特許庁長官 若杉 和夫 殿

以上

1. 事件の表示

昭和57年特許願第111815号

2. 発明の名称

感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

東京都中央区京橋一丁目5番15号

株式会社 トモエガワ センシ

代表者 井上 貴雄

電話 272-4111 (大代表)

4. 補正命令の日付

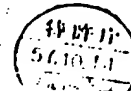
昭和57年9月28日 (発送日)

5. 補正により増加する発明の数

0

6. 補正の対象

明細書の図面の簡 を説明の簡



2011年12月31日

[illegible]

千 古 流 傳 正 書

特許庁長官 石 井 和 夫 殿

1. 事件の表示

昭和57年特許願第13118、1319号

2. 発明の名称

感熱孔版原紙用多孔性薄葉紙

3. 補正を打てる者

事件との関係 特許出願人

東京都中央区京橋一丁目5番15号

株式会社 巴川製紙所

代 理 者

電話 272-4111 (大代表)

4. 補正命令の日付

自免補正

5. 補正により増加する発明の数

なし

6. 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄

7. 補正の内容

1) 第 3 頁 7 行目 ~ 9 行目

「本発明に於いて使用する を及ぼす。」を「本発明に於いて使用する高分子フィルムは、塩化ビニル-塩化ビニリデン共重合体フィルム、ポリエスチルフィルム、ポリエチレンフィルム、ポリプロピレンフィルム、ポリブチドフィルムなどの熱感受性樹脂フィルムが用い得る。

特にポリエステルフィルムは力学的強度、耐エマルジョンインキ性に優れ、最も推奨できるものである。

高分子フィルムは、フィルムの種類によつて異なるが、 $2\mu\sim 8\mu$ が好ましく、それ以上の厚さになると穿孔に悪影響を及ぼす。」と補正する。

2) 第 3 頁 10 行目

「ポリエスチルフィルム」を「高分子フィルム」と補正する。

3) 第 3 頁 14 行目

「使用できるが、中でも銀状ポリエステル樹脂が、」を「使用できるが、特にポリエステルフィルムを使用した場合は銀状ポリエステル樹脂が、」と補正する。

以上